

ホタルとは

ホタル類は、世界には約2,000種を超える仲間があり、日本には約40種が報告されています。中でも、一般的に有名なのが「ゲンジボタル」と「ヘイケボタル」です。これら2種は、幼虫期を水中で過ごすという、世界的にも珍しい習性を持つことでも知られています。それぞれの違いについては以下のとおりです。

ゲンジボタルとヘイケボタルの主な違い		
種別	ゲンジボタル	ヘイケボタル
発光	約4秒～2秒	約1秒
発光器	オス2節・メス1節	オス2節・メス1節
飛び方	曲線的	直線的
産卵	6月～7月頃 一匹で約500個～	7月～8月頃 一匹で約70個
幼虫のえさ	カワニナ	カワニナ・モノアラガイ タニシ
大きさ	オス18ミリ メス20ミリ	オス7ミリ メス9ミリ
生育環境	本州・四国・九州に分布。山間の流れのはやい水域に生息	北海道、本州、四国、九州に分布。水田や湿地の流れの少ない水域に生息

ホタルの光

ホタルは成虫だけが光るのではなく、大半の種類が卵も幼虫もサナギも光るということを知っていましたか？もちろんオスもメスも光ります。



光る理由には諸説ありますが、これといった決定打はないようです。外敵から身を守る警戒色説や、夜行種では生殖行動のサイン説等があります。

このホタルの光には、生物学だけではなく様々な分野でも注目されています。その理由は、地上で最もエネルギー効率が高い発光メカニズムにあります。

白熱灯約10%、蛍光灯約20%、LED約30%に対し、無駄な熱をほとんど出さない「冷光」と呼ばれるホタルの光は88%というエネルギー効率を誇ります。研究が進めば、近い将来LEDを超える究極の省エネルギー型照明が出てくるかもしれません。



発光するホタル

ホタルに逢える里

寒暖の差が激しい時期が続きましたが、ここ北海道も徐々に暖かい気候となり、やっと短い夏が始まります。

夏の風物詩といえば「ホタル」というのは、最近では遠い昔のころのようです。以前は、近くの小川でその美しい光の乱舞を見ることができた日本人にとって馴染みの昆虫でした。しかし、都市化の進展に伴う水質や土壌汚染等の影響により生息環境が大きく変化し、今ではほとんど見ることはできなくなりました。

最近では、環境を旗印に全国でホタルを呼び戻そうという活動が行われています。

今回は、7月中旬から8月中旬にかけてホタルに逢える、北見市上ところの金刀比羅山の麓にあるホタルの里を紹介します。

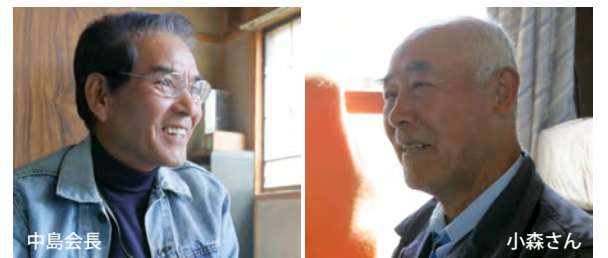


「上ところホタル友の会」の活動について

北海道の代表的なヘイケボタルが生息できる環境作りに取り組んでいる「上ところホタル友の会」を紹介します。

活動のきっかけは、会長の中島氏が平成7年頃、上ところで子供会の会長職にあった時に、その当時の子供たちから「ホタルを見たことがない」との話が大きなきっかけとなりました。折しもその時期にホタルの里を作りませんかという話があり、「昔は上ところでもホタルが生息していたが、現在は見ることはできなくなってしまった、人間の手で絶滅させたのなら人間の手で復活させよう」ということで、賛同する仲間を募ったそうです。もともと湿地帯だった金刀比羅山の麓に水路や池を作り、ホタルの餌となるカワニナ・タニシ等を放流して、ホタルの増殖活動が始まりました。

最近では、年間約2,000人の人が訪れるそうです。中にはリピーターも多く、毎年来る人や年に数回来る人もいます。また、旅行中にホタルが観賞できるという情報を聞きつけて来る人もいます。



現在の活動内容

会長を含め役員が6人で会員数は60名程度となっています。

年会費(1,000円)は周辺整備費等に使われています。観賞環境の整備として、照明や車のライトが映り込まないように暗幕の設置や木道等を整備しています。

水害等によるホタルの絶滅を防ぐために卵から幼虫までを室内で飼育し、餌となるカワニナやタニシ等を捕獲しています。

毎年7月下旬から8月上旬に行われる「ホタル祭り」では、農産物、焼き鳥、ジュース等の販売も行われ、子供たちを始め多くの人で賑わいをしています。

また、100円以上の募金をすると、本誌上でも紹介したホタルの写真1枚をプレゼントしてもらえます。当会の活動に賛同される方は、現在の生息環境を維持するためにも、ぜひ募金に協力してはいかがでしょうか。

活動してきて大変だったこと

ホタルも徐々に環境に慣れてきて増えてきた頃、3年前の大雨で水路や池の6割程度が土砂で埋まってしまい、会員やボランティアで土砂の撤去や木道、木柵の復旧を行ったそうです。幸いにも、一部のホタルがこの状況の中を一生懸命に乗り切り、現在も順調に増えているそうです。



ホタルの幼虫



ホタルの成虫

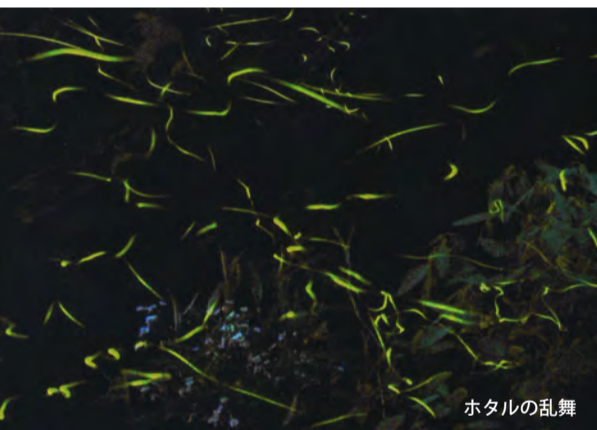
ホタルの観賞

気温が高い7月中旬から8月中旬がよく光るので、観賞時期としてお勧めです。服装等は、長袖と長靴を持って行ったほうが良いとのこと。

観賞する時に、運よく中島会長や小森さんに出会うことができましたなら、貴重な体験ができるかも。それは、ナント！！声でホタルが寄ってくる様子や実際にホタルを手のひらにのせてもらうことができます。さらにホタルの寿命や生態等を親切に教えてもらえます。



感想が記された雑記帳



ホタルの乱舞

- とてもキレイでした。来年、また見にきます。キレイなホタルずっと守って下さい。(女性)
- ほたるをみたのははじめてで、テレビとかでみたよりもきれいでした。それからほたるは小さかったです。手にのせてみたけどすごかったです。(女の子)
- 蛍の光は、とても神秘的で幻想的で綺麗でした。(女性)
- おじさん、きれいだったよ(女の子4名)
- 蛍が見れて、とってもうれしかったです。また来年も楽しみにしています。(男の子2名)
- はじめて、ほたるが見れてよかったです。おじさんありがとう。(女の子2名)



子供たちが描いた感想画

中島会長達は、ホタルを通して子供達に夢とロマンと自然環境の大切さを伝えて行きたいという思いで、この会を運営しているそうです。



「ホタルの里」の現地看板

今後の活動は

今後、他の地域でもホタルの飼育や環境作りを行いたいという個人または団体に、当会での経験やその方法を教えながら「ホタルの里」を広域に増やすことで、人工的ではなく自然環境の中でホタルを観ることができるようになることが最終的な目標とのこと。

ホタルの里や、飼育と環境作りに関して情報がほしいという場合は「上ところホタル友の会」の中島会長へ連絡して下さい。



写真提供：「上ところホタル友の会」小森英二さん
連絡先：「上ところホタル友の会」会長 中島邦夫
携帯：090-5076-6141
<http://nakazaki-t.net/hotaru.html>